

海津市みんなの子育てひろば

子育て

にこにこ



通信

発行：海津市家庭教育推進協議会

No.1 (令和3年 6月号)

今年は例年よりもかなり早い梅雨入りでした。コロナ生活も1年半が経ち、おうち時間をどのようにお過ごしですか。学校ではタブレットの導入やWebを活用した学習でデジタル化が急速に進みました。デバイスのW使いを当たり前のようにしている子を見ると、親世代とのギャップを感じます。スマホさえあれば、一人でいても、いつでもどこでも「知る、見る、聞く、話す」ができる時代。しかし、今、おうちでしかできない「親子で料理」「家族でスポーツ」「家族でおしゃべり」などを楽しみ、家族の絆を深めましょう。

今年度も皆さんに寄り添う子育て情報を発信します。

コラム「たんぽぽ花子」のひとりごと

第1回 「ひとりじゃないよ！！」



みなさん、こんにちは！

今年度の子育てコラムを書かせていただくことになりました「たんぽぽ花子」です。自己紹介は下記をご覧ください。今回匿名にさせていただいたのは、今までの経歴など何も関係なく、子育てについて自由に書いてみたい、そして読んでくださる方にも何の先入観もなく、自由に読んでいただけたらと思ったからです。

今一番心配していることは、子育て中のパパやママは孤立していないかなあということです。コロナウイルスの感染がなかなか収まらず、書いている今も緊急事態宣言が都市部に出されている真最中です。マスク生活は当たり前、人との接触を少なくしたり、ソーシャルディスタンスをとったりと、人との距離を保たねばならない生活が強いられています。長男の嫁は、妊娠してから母親教室がオンラインになり、付き添いも立ち会い出産も面会もなしです。今まで立ち話していたことも、ランチしておしゃべりしていたこともままならない状況が続いています。仕方がないことだと思うのですが、これが当たり前だと思うことは少々違うように思うのです。

コロナ禍でなくても子育ては大変で、時にして孤独感を味わいます。母親一人ですべての責任を担ったり、子育て家庭が地域の中で孤立していたりすることも多くあります。そこにコロナが加わり、より一層「ひとりぼっち」と感じている子育て世代の親さんは多いのではないのでしょうか。



そんなみなさんに。「ちょっと肩の力を抜いて、周りに頼ってみよう。」と言いたいです。まずは家族を頼りましょう。パートナーには思いを話せていますか？ 思いを聴いていますか？ わかっているようでわかっていないのがパートナーの思いです。子どもが寝てしまったわずかの間でも、自分の思いを伝え合ってください。パートナー以外の家族、親や兄弟に頼ることもいいですよ。友達や話しやすい人を頼ることもいいですね。園や学校の先生、行政の子育て

支援を頼ることもよいと思います。学校や行政というとハードルが高そうに思いますが、先日も子育て支援センターに伺うと、何人かの親子連れが来ていて、子どもを遊ばせながら親同士お話ししたり、施設の方と話をしたりしていました。相談窓口の電話を利用することもいいことだと思います。自分のモヤモヤした思いを口にするだけで、ずいぶん整理され、心もすっきりするものです。周りに頼れる家族も友達もいないという方も、どうかそういうところを活用してください。ひとりじゃないですよ。

【自己紹介】

38年間勤めていた仕事を定年退職し、今は全くの家庭人です。二人の男子を授かり、実母・夫・長男夫婦と一緒に暮らしています。長男夫婦には待望の赤ちゃんが5月末に誕生しました。二男家族は隣町に住み、三人の子どもに恵まれ、にぎやかに暮らしています。